

奥出雲町デジタル田園都市構想総合戦略 施策評価一覧（取組目標別）

令和6年度

| 取組目標 1 | 稼ぐ地域をつくり、奥出雲町で安心して働けるようにする | |
|--------------|---|-------------|
| 担当課 | 環境政策課、農業振興課、定住産業課、町民課、政策企画課、健康福祉課、こども家庭支援課、建設課 | 総合評価平均 75.4 |
| 前年度の取組の成果と課題 | <p>【稼げる地域づくり】</p> <p>●仁多米の堆肥施用を推進し、奥出雲仁多米株によるブランド加算金による生産の誘導、支援を行いながら、農業者の所得向上、営農継続に繋げることができた。また、令和6年度は全国的に米の品薄感から取引価格が上昇し、奥出雲仁多米（株）のふるさと納税返礼品等による有利販売も好調となったほか、ブランド加算金の追加交付により、農業者の更なる所得向上を図ることができた。1袋（30kg）あたり平均260円</p> <p>●改良品種と比べ収量の少ない在来の小そばの生産拡大を図るため在来小そば作付奨励事業を実施した。数量：7,805kg 補助金額：1,530千円</p> <p>●令和5年度から引き続きエゴマ栽培の取組面積拡大と開発農地の活用を図るため、有機エゴマ作付奨励事業を実施したが、ここ数年は取組面積が伸び悩んでいる状況にある（R6 7.51ha）。</p> <p>●農業遺産では、中国四国管内の農業遺産に認定される4地域で「農業遺産マルシェ岡山」を共同開催し、本町の農業遺産のPRと特産品販売を行った。</p> <p>●奥出雲仁多米(株)では、米・食味分析鑑定コンクールに出品し、金賞を8年連続、通算14回目を受賞した。VIVANT赤飯の売り上げ実績（令和5年度：800万円、令和6年度：250万円）</p> <p>●中山間地域等直接支払制度第5期対策において追加された「棚田地域振興活動加算」は、20集落が「棚田保全」、「機能の維持・発揮」、「棚田を核とした地域振興」について目標設定を行い事業を実施した。具体には棚田景観の保全管理、棚田米の独自販売、棚田オーナー制の導入、農泊や農業体験など棚田を核とした地域振興等に取り組んでいる。</p> <p>●農地の集積事業について、本事業を活用した中間管理機構による新規設立法人への農地集積等により、担い手への集積率は32%となり令和5年度と比較して0.9%増加した。</p> <p>●多面的機能支払交付金事業について、地域における共同活動により農地・水路・農道等の地域資源の保全がなされた。合計対象農用地：2475.54ha、水路：1.66km、農道：3.93km、ため池：3箇所</p> <p>●有害鳥獣による農作物被害対策として、捕獲報償金による有害鳥獣捕獲（2,256件）、奥出雲町有害鳥獣被害対策協議会において国交付金を活用したイノシシ用防護柵貸与事業（47件）及び捕獲機材貸与事業（10件）の実施、有害鳥獣追い払い用煙火の講習会（2回）を実施しているが、被害は後を絶たない状況にある。</p> <p>●畜産指導員配置事業により、全国和牛能力共進会出品候補牛掘り起こしや飼養管理技術指導、選抜会・共進会指導、出品対策、農業公社家畜改良（育成・保留・導入）指導・育成技術指導がなされた。飼養管理技術指導40回、共進会指導6回、出品対策50回、農業公社家畜改良指導30回、育成技術指導40回程度を実施。</p> <p>●株式会社仁多堆肥センターは正職員が1名のみで、かねてより総務経理部門の適正化、将来を見据えた堆肥製造部門の体制強化が課題であった。昨年度策定した町の第三セクター等経営健全化方針において、関連性が強い第三セクター等への統合の検討を進めることとし、その結果、令和7年4月1日に「奥出雲仁多米株式会社」に吸収合併され、統合した。</p> <p>●県営林業専用道整備について、令和6年度は505mを施工。（累計805m）国庫補助金の配分に影響され、施工延長が伸びていない状況。残り5,057m。</p> <p>●町産材の利用促進と住宅関連産業等の振興を図るため、町産材利用促進事業を創設した。町産材利用量を増やすため、活用状況や関係者の意見を参考に、必要に応じて対象を拡充する必要がある。住宅の建設、改修などを行うのに、町産材を利用した場合に補助。令和6年度2件。</p> <p>●地域活性化起業人制度により、令和4年10月から始めるなびの社員1名が本町でお土産開発、奥出雲産品の販路拡大等を中心に業務を行っている。横田高校美術部デザインの「奥出雲 縁結びクッキー缶」を令和6年5月にリリースし、町内（ゆかり庵・玉峰山荘）、町外（シャミネ松江、大社ビームス等）で販売し、クッキー缶を通して本町のPRを行った。また、奥出雲舞茸を使用したオイルを京都の料亭と開発し、令和6年11月にリリースし、舞茸直売所等で販売を行った。</p> <p>●商工業者自身で消費喚起や町外からの消費を促す取組（奥出雲バル事業、プレミアム付き商品券発行事業）を実施され、町からも支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模事業者事業継続支援補助金 10件 ・小規模事業者経営継続化支援員設置補助金 1件 ・奥出雲バルは町内飲食店の利用促進を目的にR6.6に仁多・横田各1日で開催。事業者側の負担が大きい事や2日限定開催により町外からの来訪が限られることから、今後の開催については検討を行う必要がある。 <p>【安心して働ける環境づくりによる担い手確保】</p> <p>●町内の農業経営体のうち、法人1経営体に対し農業用ローンの補助、法人1経営体に対し田植機、ラジコン草刈機の補助、個人1経営体に対しトラクター購入の補助を実施し、生産性向上と新技術の導入を支援した。</p> <p>●森林組合林業従事者数については、4名の退職者と4名の採用により増減なしとなったが、引き続き林業の担い手確保対策を行う必要がある。</p> <p>●町内産木材活用の一貫として、誕生祝い品の積木を製作。令和7年度より贈呈開始する。</p> <p>●令和6年度から1名のフォレストワーカーが着任し、活動している。令和7年度より1名増員。</p> <p>●きこりプロジェクトの会員数（78名）は伸びているが、実際に出荷する人数（R5 11名、R6 12名）については変わらない状況。</p> <p>●行政と企業とが連携して人材確保に取り組むため町内企業意見交換会を実施し14社の参加があった。併せて、島根ITデザインカレッジの外国人留学生の増加、企業の外国人人材登用の関心の高まりをうけ、研修会を実施した。行政主導から、企業と連携して雇用対策に取り組む仕組みづくりの必要性を感じている。</p> | |

| 理念 | 基本目標 | 基本目標評価（平均点） | 取組 | 担当課評価 | 施策担当課（R6.4時点） |
|--------------------------|----------------------|--------------------------|--------------------------|-----------------|---------------|
| 1 | 子育て・教育の充実と奥出雲を担う人づくり | 85.0 | (1)子育て世代の「住みたい」を叶える環境づくり | B | 定住産業課 町民課 |
| | | | (2)奥出雲を愛する関係人口づくり | A | 政策企画課 定住産業課 |
| | | | (3)情報発信による移住定住の促進 | A | 定住産業課 総務課 |
| | | | (4)関係人口の拡大と地域間交流の促進 | B | 政策企画課 |
| | | | (5)棚田を活用した農村振興 | B | 農業振興課 |
| 2 | 活力ある産業の振興 | 75.0 | (1)農業の生産性向上と新技術の導入 | B | 農業振興課 |
| | | | (2)農地の整備・維持・管理・保全 | B | 農業振興課 建設課 |
| | | | (3)奥出雲と牛等の生産基盤の維持拡大 | B | 農業振興課 |
| | | | (4)耕畜連携による資源循環型農業の推進 | B | |
| | | 50.0 | (1)山林の保全・基盤整備と木材利用の促進 | D | 環境政策課 |
| | | | (2)山林の多面的利用 | B | |
| | | | (3)森林環境の保全・創造 | B | |
| | | 75.0 | (1)農畜産物のブランディング | B | 農業振興課 |
| | | | (2)奥出雲の強みを活かした特色ある生産と販売 | B | |
| | | | (3)林産物のブランド化 | B | 環境政策課 |
| (4)地域資源や伝統技術を活かしたブランディング | B | | 政策企画課 定住産業課 | | |
| (5)安心・安全で売れる農産物の生産 | B | | 農業振興課 | | |
| 62.5 | 活力ある産業があるまち | (1)商工事業者への経営支援 | C | 定住産業課 | |
| | | (2)地域資源を活用した産業の創出 | C | | |
| | | (3)起業支援の促進 | B | | |
| | | (4)誘致企業の支援・新たな働き方の推進 | B | | |
| 68.8 | 働きやすさ・働きがいがあるまち | (1)地域産業の担い手育成・確保、町内就職の推進 | B | 定住産業課 農業振興課 | |
| | | (2)営農組織の強化と担い手の育成 | B | 農業振興課 | |
| | | (3)林業の担い手と就業者の確保 | B | 環境政策課 | |
| | | (4)人材不足業種への人材確保支援 | C | 健康福祉課、建設課、定住産業課 | |
| 83.3 | 世界中に魅力が広がるまち | (1)観光情報発信・プロモーションの強化 | B | 定住産業課 | |
| | | (2)観光資源の魅力化 | B | | |
| | | (3)受入れ体制の充実 | A | | |
| - | 計画の実現にむけて | 85.0 | (1)地方創生SDGsの推進 | B | 環境政策課 |
| | | | (2)民間活力の導入 | A | 政策企画課 |
| | | | (3)住民と協働のまちづくり | A | 総務課 |
| | | | (4)住民に関わられた行政運営 | B | 総務課 |
| | | | (5)効果的な行財政運営 | B | 財政課 |
| | | 93.8 | (1)行政サービスの向上と効率化 | A | 総務課、町民課 |
| | | | (2)情報通信基盤の整備 | A | |
| | | | (3)デジタル化社会に対する人材育成等の推進 | A | |
| | | | (3)情報サービスの充実 | B | |
| | | | (3)情報サービスの充実 | B | |

各種意見・評価

| 評価委員会 |
|---|
| <p>・町の人口規模では商業の継続は難しい状況にある。世界農業遺産認定を契機として、交流人口を増やしながら、町外に販路を拡大しないとイケない。</p> <p>・関東圏では、仁多米や世界農業遺産の認知度は薄いことから、PRをしっかりと行っていくこと。</p> <p>・特別栽培米を生産するメリットを感じにくい。奥出雲仁多米株式会社のブランド加算金制度の周知をしっかりとしてほしい。</p> <p>・和牛飼養農家が100軒を切り、後継者不足が大きな問題である。阿井小学校で30年以上、児童による牛の審査会をしており、ここで学んだ子から後継者が3名生まれた。小学校統合後も体験学習として続けてもらいたい。</p> <p>・令和9年度に北海道で開催される全国和牛能力共進会に向けて、好成绩を収めるべく頑張っており、支援をお願いしたい。</p> <p>・全国的にクマ被害が話題だが、農業だけでなく観光面にも影響が起ころう。しっかり対策をしてほしい。</p> |

| | |
|-------------------------------|---|
| <p>前年度の 取組の 成果と課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●特定地域づくり事業は、10月より1名増の3名の派遣実績となり、年間を通じて職員を派遣できたため、黒字決算となった。 ●令和6年度より医療・介護職人材確保奨励金を1年毎に10万円を2年間に渡って支給することとした。対象を拡大したが、新規の申請者は1名にとどまり、合計5名の申請であった。また、医療・介護事業所が人材確保及び資格取得等の人材に要した経費の助成事業を新設し、2事業所から申請があった。 ●建設業等公的資格取得費用助成事業により、4社へ助成を行った。計6人、9資格（大特5 建機4） ●建設業人材確保対策奨励事業により、新たに3名へ助成金を交付した。 ●地域おこし協力隊は退任した3名が、そのまま定住した。定着率100%となり、業務や定着のサポートの成果が現れた。 |
| <p>今後の 取組方針</p> | <p>【稼げる地域づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●世界農業遺産認定による地域活性化を推進するため、農業、観光、教育、文化振興等の施策に活用する。 ●世界農業遺産認定を活かして歴史文化や景観といったストーリー性を付与した農産物のPRをすすめ、循環型農業を実践する農業遺産のまちとして、奥出雲の食を求めて食べに來たり農産物を買いに訪れるよう、交流人口拡大、農業活性化に向けて取組をすすめていく。 ●仁多米は、堆肥施用米、特別栽培米の生産を推進し、消費者に選ばれる美味しい米生産・販売に取り組んでいく。また、地域おこし協力隊の仁多米コーディネーターと奥出雲仁多米（株）で、仁多米の美味しさをPRし、ブランドイメージの定着、有利販売を展開していく。 ●イノシシ等の有害鳥獣による農作物被害防止は、引続き捕獲と防護の両面から対策を行う。被害の拡大が懸念されるサル・シカについて、捕獲機材や県事業を活用し、被害防止を図る。サル対策は令和6年度から実施している有害鳥獣追い払い用煙火講習会を継続して開催し、住民の追い払いによる被害防止対策を促進する。有害鳥獣捕獲従事者の高齢化に伴う減少対策として、令和7年度から狩猟免許取得費用に対する補助を実施する。 <p>●みどりの食料システム法が制定され、環境に優しい農業や、消費者からはより一層安心安全な農産物が求められる。引続き環境保全型農業直接支払い支援対策事業や美味しまね認証及び有機JAS認証取得の支援を行うとともに、企業版関係人口創出プロジェクト事業による有機農業を切り口とした新規就農者誘致及び伴走支援による有機農業の試行的実施を進め、消費者に選ばれる農産物の生産を推進し、農家所得の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●除雪業務に必要な資格取得費用の助成を行うほか、建設業協会の周知活動や定住イベント等での周知活動を実施する。 ●施業の集約化・団地化に併せ、団体営林業専用道の新規計画箇所の検討を行う。1団地1路線の予定。 ●間伐材の搬出は、町民向けのチェーンソー講習会（年2回）や山林活用研修会、作業道敷設研修等（各1回）を実施し、会員の技術向上と新たな会員の確保を図る。 ●町産材の利用促進と住宅関連産業等の振興を図るため、町産木材利用促進事業の対象を住宅以外の非住宅建築物にも拡大する。 ●地域活性化企業人制度の活用により、町の地域資源（人材、特産品、ストーリー）を活かした商品開発等を行い、奥出雲のブランディングを行う。インスタ等で有名な料理人とコラボし仁多米をPRする。 ●商工会が策定する経営発達支援計画に基づく伴走型支援が円滑に推進されるよう支援し、経営改善をはじめオンライン販売や地域電子通貨の導入など、社会情勢に対応した取組を支援し持続可能な地域経済の確立を目指す。 ●関係機関と連携し、新分野への進出や販路拡大を検討する事業者への相談や支援を実施した（2件）。ほぼ全ての分野において物価高騰・人手不足の影響が続いており、新たな分野への進出や販路拡大が進まない状況となっている。 ●引き続き関係機関と連携し、新事業展開や販路拡大を計画する事業者への相談・支援を実施する。あわせて、物価高騰・人手不足を解消するためのIT機器・システム導入等の支援も行う。 <p>【安心して働ける環境づくりによる担い手確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高齢化の進む農事組合法人や営農組合において持続可能な農業経営を目指し、国や県の機械導入事業のほか、中山間地域等直接支払制度第6期対策から始まるスマート農業加算を活用して、スマート農業の導入が広がるよう取組支援を行う。 ●奥出雲町農業公社の新たな事業として新規就農者確保事業を行うよう検討中である。令和7年度は農業体験を通じた掘り起こしを行うため、農業や田舎の良さを体験できるイベントを開催予定である。また、東京や大阪においてUIターンフェア等で就農希望者の確保を図る。 ●商工会との連携による専門的なセミナーを開催し、一歩踏み込んだ実践に即した内容とすることで起業への意識醸成を行う。 ●誘致企業に対する年数回の企業訪問により、課題や要望の聞き取り、関係機関との情報共有等を行う。また、町内の学校等との連携・共有場をつくり、安定的な雇用の創出を図る。県と連携し3大都市圏で開催する企業立地セミナーや展示会等に積極的に参加していく。奥出雲町のPR（サテライトオフィス、空き校舎等の物件情報など）に加え企業側のニーズの把握などを行い、誘致施策に反映させる。あわせて、町内の既存誘致企業について、事業拡大の要望に対し、物件の斡旋などの対応を行う。 ●農業や林業など、地域資源を活用した雇用の場の創出のため、閑散期に他の仕事に従事するなど、新しい雇用機会が創出されるよう整備する。 ●島根県除雪機械運転資格取得支援事業補助金の年齢条件引き上げに合わせ、改めて周知を行う。（55歳以下→60歳未満） ●地域おこし協力隊の退任後の計画について伴走支援を行い、定着率を高めていく。令和7年度新たに、フォレストワーカー1名、おくいずも未来CN1名、仁多米PRCN1名、地域づくり支援員1名 計4名が着任した。令和7年度は、6名を随時募集（高校(2)、蔵人(2)、農業(1)、病院(1))している。 |

奥出雲町デジタル田園都市構想総合戦略 施策評価一覧（取組目標別）

令和6年度

| 取組目標2 | 都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる | | |
|--------------|--|--------|------|
| 担当課 | 定住産業課、教育魅力課、政策企画課、環境政策課 | 総合評価平均 | 82.6 |
| 前年度の取組の成果と課題 | <p>【移住・定住の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●空き家バンク制度は、新規物件登録が13件、利用者登録が39件あり、9件が交渉成立した。登録物件を動画で公開し、問い合わせが増加した。 ●空き家バンクの新規物件登録数は前年度より7件増加したが、下水道の未接続や水回りのリフォームを要するなど状態のよくない物件が多く、内見や交渉に至らないことが多かった。すぐに住めるような状態の良い物件を増やすことが課題である。 ●住宅整備支援事業について、若者世代のUターンを促進するため親世代からの申請も可能とする制度改正を行った。住宅整備支援件数は11件、内訳はUターン3件、町内在住者8件であった。以前として町内在住者の実績が多いため、Uターン者の実績を増やすことが課題である。 ●移住相談会は東京1回、移住フェアは大阪・東京各1回参加し、計107名に町をPRした。移住本気度の高かった来場者に、イベント後のつながりづくりやアプローチを行い、1組の移住につながった。 ●お試し暮らし体験について、宿泊補助を1泊分から3泊分まで拡充した。年間で9組の利用があり、移住につながった方は4組10人とコロナ禍後では最多となった。 ●移住者交流会を7月に実施し、11家族20名の参加があった。また、移住者交流会とおいづも暮らし体験ツアーを組み合わせたイベントを11月に実施し、移住者4名県外者2名の参加があった。お試し暮らし体験のツアー型プログラムは参加者がなかなか集まらなかった。イベントの参加促進が課題である。 ●移住検討者とのつながりづくりときめ細やかな対応、Uターン促進のため、「おいづも登録」「つながる便」「Uターン応援金」「奨学金返還支援事業」を新たにスタートし、サポートセンターを通じた移住者の増につながった。 ●住宅整備支援件数は11件（内訳はUターン3件、町内在住者8件）で前年度より3件減であった。R6年度より、子育て世代がUターンするために親世代が行う住宅整備についても補助対象とし、親世代の申請実績が1件あった。 ●若年層（39歳以下）や子育て世代（18歳未満の子がいる世帯）向けの住宅団地を15区画整備した。 <p>【若者の定着・Uターン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校再編を控え、9小中学校で23名の特別支援員、全ての小中学校に学びのサポーターを配置して、学校での支援体制の充実を図った。 ●横田高校は、SNS、学校だより等を活用した情報発信を積極的に行い、地元中学生・県外生徒の受入れに向けて取り組んでいる。また、探求学習の「奥出雲学」を通して、自発的な学習や生徒のスキル習得につながり、地元住民から高い評価を得ている。 ●島根リハビリテーション学院は、定数を下回る年もあるが、安定して入学生を迎えている（R6 42名）。募集体制や学校の魅力化の情報発信を行っている。 ●島根ITデザインカレッジでは、経営母体が交代し、IT分野に力を入れ、多くの外国人生徒が入学している（R6 合計36名）。 ●小学校の統合を控え、各地域の魅力ある学習素材（旧校区の地域学習）をどう継続していくかや中学校区で系統的な内容の積み上げ（ふるさと学習の内容重複がなく、適切な学習深度）になっているかを検討していく必要がある。 ●町内でも将来を担う若者が地域活動に参加している例が増えてきている。また、横田高校生も地域の活動で活躍できる仕組みづくりや世代を超えたつながりづくりも進んでいる。しかし、関わる人材が固定していたり、高校生が参加できない事業もある。 ●こども版きこりプロジェクトを町内中学校1年生（横田・仁多 各1回）を対象に行い、林業への理解と関心を深めることができた。こども達が環境保全や林業について学ぶ貴重な機会となっており、今後も継続する。 ●幼児等を対象に、木育教室（ロボ木づくり）を実施した。 <p>【関係人口の創出・拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●企業版関係人口について、奥出雲町をフィールドに町の地域課題解決につながる実証事業に取り組む企業をさらに事業で募集し、2社採択した。仕事体験を通じた移住就労促進、スポーツ合宿の誘致の実証事業に関係課と連携し取り組んだ。 ●奥出雲町ブランドメッセージ「大切なものほど、奥にある。奥出雲町」を広めるため、利用マニュアルを作成し、HPで公開した。町のプレスリリースやチラシなどに積極的に使用し、ブランドイメージを定着させた。また、ステッカーを作成し、「おいづも未来サポーター」会員特典として配布した。（R6実績132名）さらに、山陰広告賞2025に応募し、デザイン部門で金賞を受賞した。 ●官民の情報発信力を高めるため「おいづも魅力発信講座」で、写真の撮り方講座を開催した。（開催回数1回） ●2025年3月31日時点でInstagramフォロワー6,304人（685人増）、フェイスブックフォロワー2,419人（231人増）。 ●Instagramのフォロワーを獲得するため、令和6年度もルーキーズプロジェクトにより週2回の投稿と新規企画を3つ実施し、フォロワーが685人増えた。 | | |

| 理念 | 基本目標 | 基本目標評価（平均点） | 取組 | 担当課評価 | 施策担当課（R6.4時点） | | | | |
|----|----------------------|-------------|----------------|--|--|------------------------|---|--|--|
| 1 | 子育て・教育の充実と奥出雲を担う人づくり | 75.0 | ②魅力的な学びの場があるまち | (1)小学校再編と学校運営(支援)体制の充実 (2)奥出雲ならではの特色ある教育 (3)幼稚園から高校・専修学校の魅力化 | A C B | 教育魅力課 | | | |
| | | | 80.0 | ③大人も子どもも成長できるまち | (1)地域でのふるさと教育の拡充 (2)奥出雲を愛する多様な人づくり (3)社会教育における学びの充実 (4)人権・同和教育の推進 (5)多文化共生・国際交流の推進 | A B B B B | 教育魅力課 町民課 定住産業課 政策企画課 定住産業課 町民課 | | |
| | | | | | 85.0 | ⑤ここに住みたい、住んでよかったと思えるまち | (1)子育て世代の「住みたい」を叶える環境づくり (2)奥出雲を愛する関係人口づくり (3)情報発信による移住定住の促進 (4)関係人口の拡大と地域間交流の促進 (5)棚田を活用した農村振興 | B A A B B | 定住産業課 政策企画課 定住産業課 定住産業課 総務課 政策企画課 農業振興課 |
| 2 | 活力ある産業の振興 | 68.8 | | | | | ⑨働きやすさ・働きがいがあるまち | (1)地域産業の担い手育成・確保、町内就職の推進 (2)営農組織の強化と担い手の育成 (3)林業の担い手と就業者の確保 (4)人材不足業種への人材確保支援 | B B B C |
| | | | 83.3 | ⑩世界中に魅力が広がるまち | | | (1)観光情報発信・プロモーションの強化 (2)観光資源の魅力化 (3)受入れ体制の充実 | B B A | 定住産業課 |
| | | | | | 3 | 安心して暮らせる生活基盤の確保とまちづくり | 90.0 | ⑬持続可能なコミュニティがあるまち | (1)小さな拠点づくりの推進 (2)未来を担う人づくり (3)価値を生み出すまちづくり (4)奥出雲町のブランドイメージの構築 (5)官民協働の戦略的シティプロモーションの実施 |
| - | 計画の実現にむけて | 85.0 | | | | | | ⑯官民協働による持続可能なまちづくり | (1)地方創生SDGsの推進 (2)民間活力の導入 (3)住民と協働のまちづくり (4)住民に開かれた行政運営 (5)効果的な行政運営 |
| | | | 93.8 | ⑰スマートタウン構想・自治体DXの推進 | | | | (1)行政サービスの向上と効率化 (2)情報通信基盤の整備 (3)デジタル化社会に対する人材育成等の推進 (3)情報サービスの充実 | A A A B |

各種意見・評価

| 評価委員会 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・小学校統合により、地域のことが分かる教員が減っていくと思われる。ふるさと教育を展開していく上で、公民館を中心とした支援が重要である。「奥出雲の特色を生かした教育」のイメージを明確にした方が良い。 ・ふるさと教育の協力者リストを早急に作成していただくとともに、地域と学校を結ぶコーディネーターの学校配置を検討してほしい。 ・作業療法士は今後、就職先が増えていく業種である。リハビリテーション学院の入学希望者を増やすため、学院や病院と連携して取り組んでほしい。 |

今後の
取組方針

【移住・定住の推進】

- 定住促進団地整備事業による住宅団地の販売に向け、SNSの活用等ターゲット層に向けた情報発信を行い販売を促進する。
- お試し暮らし体験はツアー型プログラムではなく、一人一人の要望に応じたオーダーメイド型プログラムによる対応をメインとし、移住検討者に対してきめ細やかな対応を継続的に実施する。
- 空き家対策及び空き家バンクの物件登録促進を図るため、引き続きパンフレット等を活用した情報発信、空き家相談会の実施等住民への啓発の取組を実施する。
- 空き家を改修し賃貸物件として活用する民間事業を支援する施策を行う。

【若者の定着・Uターン】

- 令和8年度は仁多地域で小学校が再編により1校となる。引き続き特別支援員、学びのサポーターの配置やブックPCの活用を通して児童生徒への学習や生活の支援を行う。
- 令和8年度に学習用端末の更新を予定しており、県の共同調達部会に参加して機器選定を行っていく。
- 地域協力者リスト作成への取り組みを引き続き実施する。協力者には各地域で行われるふるさと教育にかかわる地域講師として活動してもらう。
- 地域学校協働（学校と保護者、地域住民等が連携・協働して地域の行事や学校の学習活動に相互に参画する）の推進を図り、地域と学校の連携強化を図る。
- キャリア教育推進事業では、前年度同様、職場体験学習を実施していくほか、各学校で事前学習や事業所との連絡会、マナーアップ講座を実施する。
- 地域の伝統を引き継いだり支援したりできるよう、保護者世代や中高生を巻き込む手立てを考える（地域学校協働活動の推進による、保護者世代や学校種を超えたつながり作りなど）。
- 保護者世代や中高生をターゲットとして、「我がこと」として地域の行事に関わることができるように、「集って、楽しんで、学んで」という段階を大切にしたり、地域に関わるきっかけ作りができるように、各公民館、地域を支援する。
- 公民館事業の参加者が固定化している傾向にあるので、幅広い世代での交流の場になるように見直す。また、交流する中で、いきいきと活動する大人や頼もしい中高生の姿を見て「次は自分がそうになりたい」と思えるように、地域で働く大人との対話学習を促す。
- ロボ木教室、新生児への積み木プレゼントなど、幼児等を対象とした木育事業を継続して実施する。
- 子どもたちが木に触れ、心と体の成長、自然とのつながりを深めるため、木育の拠点施設として、現在の八川幼稚園の改修設計を行う。

【関係人口の創出・拡大】

- 企業版関係人口創出について、引き続き奥出雲町をフィールドに実証事業に取組む企業を募集し、町の課題解決に共同で取り組む。
- 「おいずも未来サポーター」向けのオンライン交流会を実施し、サポーターとのつながりを強くしていくとともに、奥出雲と関わるサポーター獲得を行っていく。

| 取組目標3 | 結婚・出産・子育ての希望をかなえる | | |
|--------------|---|--------|------|
| 担当課 | こども家庭支援課、定住産業課、健康福祉課 | 総合評価平均 | 87.4 |
| 前年度の取組の成果と課題 | <p>【結婚・出産・子育て支援】</p> <p>●町内2箇所の「子育て支援センター」では、イベント等の周知（有線放送や母子モアプリ等での情報発信、利用者の口コミ等）により利用者が増加した。利用者数…R6：2246件（459件利用増加）</p> <p>●子育て世代包括支援センター事業と子ども家庭総合支援拠点の相談窓口を一本化した「こども家庭センター」を設置し、状況に応じ必要な支援につなげた（面談13件、訪問6件、来所相談5件、関係機関とのケース協議87件）。</p> <p>●ファミリーサポート事業は、緊急時の預かり支援等、必要な人に必要な支援ができるよう体制をとっているが、登録者数37名（依頼会員22、援助会員11、両方会員4）、援助活動5件と利用が少なかった。利用件数や援助会員の増加を図るための制度設計や周知方法を見直す必要がある。</p> <p>●子育て情報発信事業では、ウェブサイト（母子モアプリ・町HP・子育て情報ポータルサイトまちごと子育て奥出雲）やフリーペーパー等により、子育て情報を発信し、施設利用やサービスの利用に繋がった。</p> <p>※母子モアプリ累計ユーザー数（R6：299名（前年比53名増。そのうち予防接種予約時期の2～3月は登録者数35名）</p> <p>●子育て応援事業所認定事業では、応援事業所マークの周知と応援事業所のPRを併せてジョーホー奥出雲での事業所紹介番組の放映（1回）を行い、周知につながった。また、事業所対象のセミナー（1回開催、15事業所参加）を通して事業所側の仕事と子育てをサポートする意識が高まった。地域全体で子育てをサポートしていくために、「おいぐも子育て応援事業所サポート事業」を創設し、事業所とともに「子育てが幸せにできるまち奥出雲」という機運の醸成に努めた。</p> <p>●妊産婦訪問（22回）、産後ケア（52件）、乳幼児訪問（58件）、子育て相談（204件）、健診後のフォロー教室（年齢や発達に応じた療育教室）（計32回）、5歳児相談会（2回）など一人一人の特性に応じ、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を他課と連携を取りながら実施した。</p> <p>●令和7年度の横田地域の児童クラブ統合に向けて、関係機関と連携し協議を行った。放課後児童クラブ、病児保育事業の実施は、継続的な利用があり、仕事と子育ての両立をサポートすることにつながった。（登録者数：放課後児童クラブ301人、病児保育46人）</p> <p>●まちごと子育て応援金で、誕生時25人、入学時64人に交付し、子育て世代の経済的負担の軽減を図った。</p> <p>●保育料完全無償化事業（対象者312人）、医療費無償化事業（対象者1,321人:乳幼児343人、児童生徒他978人）により、子育て世代の経済的負担の軽減を図った。</p> <p>●不妊治療費助成事業</p> <p>出生数の増加や経済的な負担軽減のために、R6年度より生殖補助医療費助成事業を開始し、補助限度額を300千円に拡充した。制度について、ホームページや治療機関等で周知を行った。</p> <p>●予防接種助成事業</p> <p>子どもが健やかに育つための支援として予防接種費用の助成を行った。医療機関・業者と連携し、「母子モ」を活用した小児予防接種サービスDX事業（予約のデジタル化）を構築し、R6年2月より保護者・医療機関での利用を開始したことで、事務負担の軽減にもつながった。（デジタル予約票利用延べ件数（2～3月）：34件）</p> <p>縁結び活動支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験型出会いの場として東京2泊3日のツアーを企画し町内男性9名、町内外女性7名が参加した。男性に事前レクチャーを一回実施した。非日常の中で自分らしさを発揮することができ、ツアーでは5組のカップルができた。ツアー後、縁が希薄にならないように再会パーティー1回、カップルのみの新年会を1回開催し、フォローアップを行った。 ・成人式から5年の節目に集まり、人と人、人と町がつながりふるさとを再認識する機会及び大人としての改めての出会いの場として「25歳同窓会」を開催し、30名の参加があった。 ・各イベントについて、周知の仕方や参加者集め、ターゲット層に合わせたイベント内容の工夫が課題である。 <p>●結婚・子育てコンシェルジュ事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月2回の相談日の利用はほぼない状況。相談日以外の日の相談内容も結婚が主であり、活動内容の見直しが必要である。 <p>●個別のお見合いを4件実施した。お見合いの際の相手との関わり方などルールづくりの必要がある。</p> | | |

| 理念 | 基本目標 | 基本目標評価（平均点） | 取組 | 担当課評価 | 施策担当課（R6.4時点） |
|--------------|--------------------------|-------------|----------------------------|-------|-------------------|
| 1 | 子育て・教育の充実と奥出雲を担う人づくり | 83.3 | (1)地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり | A | こども家庭支援課 |
| | | | (2)安心して子育てができる支援体制の推進 | B | 健康福祉課 こども家庭支援課 |
| | | | (3)幸せな未来をつくる出会いづくり | B | 定住産業課 |
| 4 | 奥出雲の暮らしが幸せだと実感できる生活環境づくり | 87.5 | (1)地域包括ケア充実のための体制充実と運営の効率化 | A | 健康福祉課 |
| | | | (2)地域医療の維持・確保 | B | |
| | | | (3)奥出雲病院の体制充実 | A | 奥出雲病院 |
| | | | (4)医療介護連携の推進 | B | 健康福祉課 |
| - | 計画の実現にむけて | 85.0 | (1)地方創生SDGsの推進 | B | 環境政策課 |
| | | | (2)民間活力の導入 | A | 政策企画課 |
| | | | (3)住民と協働のまちづくり | A | 総務課 |
| | | | (4)住民に開かれた行政運営 | B | 総務課 |
| | | 93.8 | (5)効果的な行財政運営 | B | 財政課 |
| | | | (1)行政サービスの向上と効率化 | A | 総務課、町民課 |
| | | | (2)情報通信基盤の整備 | A | 総務課 |
| | | | (3)デジタル化社会に対する人材育成等の推進 | A | |
| (3)情報サービスの充実 | B | | | | |

各種意見・評価

| 評価委員会 |
|--|
| <p>・以前と比べて子育て支援は大変良くなったと思う。ただ、不妊治療費や予防接種費用の助成、婚活イベントなどの周知はSNSを積極的に活用して発信したほうが良い。</p> <p>・令和8年度から横田地域は認定こども園になるが、0歳児で入園すると仮定した場合、子どもは中学校卒業までの15年間を同じ面々で過ごすことになる。いじめなど人間関係の問題が起きた場合、昔はクラス替えなどで物理的に距離を置くことができた。今後、ハード面などの支援や対策をお願いしたい。</p> <p>・幼児教育の段階から子どもの集団の在り方を考える必要がある。例えば、年の前半に生まれた子と後半に生まれた子を分ける、あるいは混ぜるなど、集団を変える工夫を考えていくべき。</p> |

| | |
|---------------------|--|
| <p>今後の 取組方針</p> | <p>【結婚・出産・子育て支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子育て応援事務所の取り組みの周知は、奥出雲町無料職業紹介情報で応援事業所認定マークを掲載するほか、ジョーホー奥出雲で事業所の紹介番組を継続的に実施する（5回）。 ●安心して子育てができる支援体制の一環として、子育て世代の経済的軽減につながる保育料や医療費等の無償化の継続実施をする。また、令和7年度から保育所副食費に加えて主食費の助成も開始する。 ●令和8年度からの仁多地域の児童クラブ統合に向けて、児童が安心して過ごせる場所となるよう、仁多福祉会・地域との協議を進める。 ●病児保育事業は、令和7年度から管理・運営を町直営による実施を開始するが、開設当初からの利用実績及び業務内容等を考慮して、引続き、利用者にとっての利便性を考慮する。 ●不妊治療費助成事業 出生数の増加や経済的な負担軽減のためにR6年度より生殖補助医療費助成事業を開始し、補助限度額を300千円に拡充する。制度についてもSNS等を活用し、さらに認知度をあげていく。 ●予防接種助成事業 継続し、予防接種費用助成を行う。令和7年度から子どものインフルエンザ任意予防接種の助成を開始する。「母子モ」を活用した小児予防接種サービスDX事業（予診票のデジタル化）の利用数の増加を図る。 ●結婚・子育てコンシェルジュ事業では、引き続き月2回の相談日を設けるが、相談会のあり方や活動内容を見直す。 ●縁結び活動支援事業では、前年度に引き続き「人と人をつなぐ」「町と人をつなぐ」をコンセプトに活動を展開し、縁結びネットワーク協議会を活用したイベント、セミナーの開催と情報共有体制を確立する。また、イベント実施をする際、婚活が前面にできると敬遠されやすいため協議会の名称から「縁結び」を削除するなど名称を変更する。 ●しまねコンピューターマッチング「しまコ」への運営支援と登録への推進。 ・登録者を募るために、協議会の14支援団体、30の協力事業所へのチラシ送付、公共施設でのチラシ配架などで周知を促す。 |
|---------------------|--|

奥出雲町デジタル田園都市構想総合戦略 施策評価一覧（取組目標別）

令和6年度

| 取組目標4 | ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる | |
|--------------|--|-------------|
| 担当課 | 町民課、総務課、財政課、健康福祉課、福祉事務所、定住産業課、環境政策課、政策企画課 | 総合評価平均 82.6 |
| 前年度の取組の成果と課題 | <p>【まちの機能充実】</p> <p>●大容量かつ安定した通信が日常的に利用できるよう町内約40施設に設置している観光・防災Wi-Fiの運用を行った。また、携帯電話3Gサービスの終了に伴い、不感地域となるエリアが発生しないよう携帯キャリアとの調整を行ったほか、携帯電波が入りにくい居宅等でも、ケーブルテレビのインターネット回線を利用し携帯電波へと変換するフェムトセルが利用できるよう整備を行った。3Gサービスの終了に伴い、不感地域となったエリアの報告はない。</p> <p>【個性あふれる地域形成】</p> <p>●横田地区、布勢地区において小さな拠点づくりの取組みがスタートし、小さな拠点づくりの取組みは全9地区での取り組みとなった。地域円卓会議から新たに「地域づくり共有連絡会」に会議を変更し、各地区での取組みを共有し、実践活動につなげた。また、取り組みを発表する「地域づくりアクション発表会」は、環境政策課と連携して「SDGsシンポジウム」に改め、地域づくりがSDGsつながる取組みであることを町全体にPRした。</p> <p>●きらり輝く地域づくり事業は、6団体（新規3団体）が採択され、文化、交流、観光、教育と多岐にわたり、各地域で活動が行われた。今後は、各活動の継続に向け、自主財源の確保等、補助金に頼らない運営体制を構築してもらう必要がある。</p> <p>●令和5年度に創設した「未来に輝け！まちづくりチャレンジ事業」は、1件採択し、奥出雲町をモチーフに、インターネット上の仮想空間メタバースワールドを子ども達が制作し、デジタル技術を学ぶ活動を行った。</p> <p>●令和5年はトロッコ列車の最終年や、TBSドラマVIVANTの放映等により、鳥根県観光動態調査開始以来初の92万人の誘客が図ることができたが、令和6年は前年の誘客効果が薄れたことと、他の観光施設との観光客誘致とくらべ競争力が不足していること（体験メニュー、施設の陳腐化、インバウンド対応等）などにより入込客数は大きく下回る結果となった。一方で、鳥根県の観光消費額は前年比143億円増加し、特に県外客の宿泊・日帰りの観光消費額単価が増加している。このことから、町内の観光客についても入込客数は減少したものの、消費単価は増加していると見込まれる。</p> <p>●観光施設の老朽化やインバウンド対応の遅れなどが目立ってきた。</p> <p>●観光客への旅情演出や快適な滞在の提供による満足度の向上を目指し、国の補助金を活用し、玉峰山荘、サイクリングターミナル、ロッジ三国、可部屋集成館、糸原記念館を改修し、受け入れ態勢の充実を図った。これにより、観光客の滞在時間の延長や個人消費の増加が期待できる。</p> <p>●公民館職員が行う活動だけでなく、地域住民と一緒に社会教育活動も増えてきている。しかし、地域住民が直接的には参加せず、「子どもの送迎のみ」や「毎年決まったものを用意するだけ」といった段階で止まっている活動も多い。</p> <p>●小さな拠点づくり団体等と連携を図りながら、多世代交流や体験活動の広がりが見えてきている。</p> <p>●社会教育主事派遣事業では、県からの1名の派遣を受け、「学校・家庭・地域が一体となった魅力ある教育環境の実現」や「地域を担う人づくりの推進に重点を置き、県事業との関連を図りながら社会教育行政及び生涯学習振興行政に関する事業」を支援した。</p> <p>●文化的景観はたた角戸の屋根を修繕を実施した。整備活用計画のための整備活用計画策定委員会を開催した（R6 2回）。</p> <p>●小学校閉校に伴う図書館資料の移館作業が増大した。学校関係者、学びのサポーター、公共図書室職員の尽力で、貴重な資料が整理され再活用されている。また、県立図書館協力巡回時に指摘された高い書架の固定工事も完了し、地震等の災害時に利用者を危険から守る対策ができた。</p> <p>●小・中での「おはなし出前（49回）」、幼稚園での「おはなしなーに（10回）」に加え、今年度から在宅の親子へのお話会（2回）を開催。赤ちゃんからの読書を広げる機会となった。また、図書室の来場者を増やすため、玄関ホールを活用して、年数回のコラボ展示、夏休み工作教室、クリスマス会などに加え、春の緑陰読書、冬の珈琲焙煎教室などの新しい事業を積極的に展開した。</p> <p>●コロナによる活動制限も緩和され、ほぼ通常通り体協事業を実施することができた。</p> <p>各競技部事業12部(陸上競技、剣道他)25回、派遣事業 6回、交流事業 2回、講習会 2回、育成事業 2回</p> | |
| | <p>【安心して暮らすことができるまち】</p> <p>●地域医療について、広く一般住民を対象に奥出雲病院との共催で、2024奥出雲町地域医療シンポジウムを開催し多数の参加があり命について学ぶよい機会となった。</p> <p>●在宅医療・介護連携推進事業の一部を奥出雲病院在宅診療センターに委託。奥出雲病院との連携を強化し、多職種地域ケア研修（4回開催）により地域の医療・介護専門職等多職種がお互いの分野について知識を深め、関係者間の連携を円滑にできた。</p> <p>●認知症に関する正しい知識や理解を深める目的で認知症サポーター養成講座を2回、ミニ講座を3回開催し、104名の住民の方に啓発活動を実施した。</p> <p>●令和6年度から町直営で認知症カフェを6回開催。認知症や介護のことなど相談・情報交換をしたり、ほっと一息くつろげる場を提供し、認知症の方を介護する家族の負担軽減を図った。</p> <p>●令和5年12月から高齢者見守りSOSネットワークの事前登録者にGPSの無償貸し出し事業を実施した（R6 10件）。また、認知症高齢者等の家族の支援体制を拡充するため、令和6年度にQRコードシールの配布を行った（12名分）。対象の方の衣服、靴、持ち物等に付けて頂き、行方不明になられた時、速やかな身元確認や保護につなげることができる。</p> <p>●あいタクシー、労協33、小さな拠点づくり組織との共創により、三所・三沢地区において10月からデマンド交通の実証実験を実施し、令和7年度からの</p> | |

| 理念 | 基本目標 | 基本目標評価(平均点) | 取組 | 担当課評価 | 施策担当課(R6.4時点) | | |
|---------------------|--------------------------|-------------------------|----------------------------|--------------------------|----------------|----------------|-------|
| 1 | 子育て・教育の充実と奥出雲を担う人づくり | 80.0 | (1)地域でのふるさと教育の拡充 | A | 教育魅力課 | | |
| | | | (2)奥出雲を愛する多様なづくり | B | | | |
| | | | (3)社会教育における学びの充実 | B | | | |
| (4)人権・同和教育の推進 | B | | | | | | |
| (5)多文化共生・国際交流の推進 | B | | | | | | |
| 2 | だれもが活躍できるまち | 83.3 | (1)多様な人材が活躍する仕組みづくり | A | 町民課 | | |
| | | | (2)すべての世代が笑顔で暮らせる社会づくり | B | 教育魅力課 | | |
| | | | (3)高齢者の活躍推進と社会参加の促進 | A | 福祉事務所 | | |
| 3 | ここに住みたい、住んでよかったと思えるまち | | 80.0 | (1)子育て世代の「住みたい」を叶える環境づくり | B | 定住産業課 町民課 | |
| | | | | (2)奥出雲を愛する関係人口づくり | A | 政策企画課 定住産業課 | |
| | | (3)情報発信による移住定住の促進 | | A | 定住産業課 総務課 | | |
| (4)関係人口の拡大と地域間交流の促進 | B | 政策企画課 | | | | | |
| (5)棚田を活用した農村振興 | B | 農業振興課 | | | | | |
| 2 | 活力ある産業の振興 | 50.0 | (1)山林の保全・基盤整備と木材利用の促進 | D | 環境政策課 | | |
| | | | (2)山林の多面的利用 | B | | | |
| | | | (3)森林環境の保全・創造 | B | | | |
| 3 | 世界中に魅力が広がるまち | | 91.7 | (1)観光情報発信・プロモーションの強化 | | B | 定住産業課 |
| | | | | (2)観光資源の魅力化 | | B | |
| | | (3)受け入れ体制の充実 | | A | | | |
| 3 | 安心して暮らせる生活基盤の確保とまちづくり | 85.0 | | (1)道路の新設・改良、維持管理 | A | 建設課 | |
| | | | | (2)上水道の改良、維持管理 | A | 水道課 | |
| | | | (3)下水道の改良、維持管理 | B | 財政課 | | |
| | | | (4)公共施設の有効活用 | A | | | |
| | | | (5)公共施設の耐震化・防災拠点の整備 | B | | | |
| 4 | 暮らしやすく自然にやさしいまち | 85.0 | (1)安定した交通手段の維持 | B | 政策企画課 | | |
| | | | (2)魅力ある住まいの確保 | B | 定住産業課 | | |
| | | | (3)空き家の利活用と老朽危険空き家の除去 | B | 町民課 | | |
| | | | (4)循環型社会の構築 | B | 環境政策課 | | |
| | | | (5)新エネルギーの導入と脱炭素社会の実現 | A | 環境政策課 | | |
| 4 | 持続可能なコミュニティがあるまち | 90.0 | (1)小さな拠点づくりの推進 | A | 政策企画課 | | |
| | | | (2)未来を担う人づくり | A | 政策企画課 定住産業課 | | |
| | | | (3)価値を生み出すまちづくり | B | 政策企画課 | | |
| | | | (4)奥出雲町のブランドイメージの構築 | B | 政策企画課 | | |
| | | | (5)官民協働の戦略的シティプロモーションの実施 | A | 総務課 | | |
| 4 | 奥出雲の暮らしが幸せだと実感できる生活環境づくり | 87.5 | (1)地域包括ケア充実のための体制充実と運営の効率化 | A | 健康福祉課 | | |
| | | | (2)地域医療の維持・確保 | B | 健康福祉課 | | |
| | | | (3)奥出雲病院の体制充実 | A | 奥出雲病院 | | |
| 4 | だれもが健やかに人生をあゆむまち（1） | | 87.5 | (4)医療介護連携の推進 | B | 健康福祉課 | |
| | | | | (1)障がい者福祉の充実 | A | 福祉事務所 | |
| | | (2)生活困窮者の支援 | | B | 健康福祉課 | | |
| 4 | だれもが健やかに人生をあゆむまち（3） | 87.5 | | (3)認知症支援対策の推進 | A | 健康福祉課 | |
| | | | | (4)高齢者福祉の充実 | B | 福祉事務所 | |
| | | | (1)文化の薫り高いまちづくりの推進 | B | 教育魅力課 | | |
| 4 | いきいきとした心と体をつくるまち | | 75.0 | (2)奥出雲町遺産と国県指定文化財の保存と活用 | B | 教育魅力課 定住産業課 | |
| | | | | (3)既存施設を活用した図書館の整備 | B | 教育魅力課 | |
| | | (4)いきいきライフを支える生涯スポーツの充実 | | B | | | |
| | | (5)町民に夢と感動を与えるスポーツ振興 | | B | | | |
| | | (6)景観形成の推進 | | B | | | |

奥出雲町デジタル田園都市構想総合戦略 施策評価一覧（取組目標別）

令和6年度

| | |
|----------------------|---|
| 前年度の 取組の 成果と課題 | <p>本格運行に目途がついた。</p> <p>●路線バスは、利用の少ない日曜日と祝日の運行を廃止し、土曜日のダイヤの短縮を行ったほか高野線を12月から廃止した。燃料費高騰や車両老朽に伴う修繕費用の増加によるコストの増加、ドライバーの不足が大きな課題であり、令和8年度仁多小学校開校に合わせたドライバーの確保が課題である。</p> <p>●木次線の利活用の推進については、令和4年11月23日でトロッコ列車の運行が終了したこと、イベント開催の減等の理由により、R6年度の送客人数実績は、一般会計事業で1,911人（前年比290人減）、特別会計事業で6,451人（前年比1,323人減）となり、送客人数を増やすため、イベントの開催、観光事業者と連携したツアーの造成、情報発信に力を入れていく必要がある。</p> <p>●買い物弱者支援は、県補助金により町が移動販売車を購入し、三沢地区、亀嵩地区に無償で貸与し、10月から見守り活動と買い物支援対策を実施している。10月からの訪問件数は1,661件と買い物支援、見守り活動等に効果がでている。</p> <p>●令和6年度中に取得した旧ごうぎん横田出張所、落合住宅等3施設を追加し、公共施設等総合管理計画付属資料の公共施設リストを精査した結果、259施設に減少した。前年度比△4施設。</p> <p>●老人クラブは、令和5年度に全地区でクラブが発足し、健康スポーツ活動や地域ボランティア活動、世代間交流等を通じて仲間づくりや健康づくりに取り組んでいる。令和6年度末時点で30クラブ、1,171名が活動しており、60歳以上人口の20.1%が老人クラブに加入している。</p> <p>●民生児童委員協議会では5月に全戸訪問を行った他、日頃から見守り活動を続けている。月例で常任委員会（代表者会）や地区毎の会を持ち、情報交換、情報共有を図っている。令和6年度は防災や犯罪、福祉サービス等、民生児童委員の活動に活用できる内容の研修会を5回開催した。</p> <p>●障害福祉サービスを提供している町内の2事業所は利用者増により手狭となっており、また、施設の老朽化も進んでいるため、今後10年先、20年先を見込んだ施設整備計画を事業所と協議していく必要がある。</p> <p>●障害児サービスについては、ここ数年利用者は増加傾向にあるが、ほとんどの利用者が雲南圏域の事業所を利用している。今後は町内でもサービスが利用できるよう町内事業所や関係機関との調整をすすめ、サービス提供の体制づくりや支援の拡充が必要である。</p> <p>●生活困窮者世帯やひとり親家庭の子どもに対して学習支援事業を実施した。町内の学習塾に委託し、小中高生の学習支援や居場所の提供を行った。令和6年度中の利用者は中学生と高校生を合わせて6名であった。</p> <p>●生活困窮者家計改善支援事業を実施し、面談や訪問により個別支援を行った（利用者5人、面談・訪問35件）。負債が多く支援が必要と思われる場合でも、本人に困り感がなく、支援を必要とされないケースが多いことが課題である。</p> <p>●ひきこもりステーション事業として、社会福祉協議会に委託し、相談窓口の開設やフリースペースの設置、就労体験の場を提供している。表面化していない当事者に対する支援としてアウトリーチの実施等が課題である。</p> <p>●高齢者生活・交通サポート事業は、R6年度のサポート券の利用率60.2%、利用人数393人、タクシー助成券の利用率37.7%、利用人数94人であった（利用率はいずれも枚数あたり）。配達料金や実証実験が開始されたデマンド交通にもサポート券が利用されている。以前からサポート券とタクシー券の利用期間が異なり複雑との声もあったため、令和7年度利用分からサポート券とタクシー券の発行時期を統一した。</p> <p>●緊急通報装置設置者はR7.3.31時点で105名。施設入所等による廃止がある一方、新規申込が11件あった。</p> <p>●高齢者等除雪支援体制づくり事業は、助け合い除雪を自治会の協力により実施しており、R6年度は32件の利用があった。また、R6～8年度において、小型除雪機購入費補助事業を実施しており、R6年度は2件の申請があった。</p> <p>●経営改善を継続的に行う中で、世情に合わせた給与費アップにより収支バランスが崩れ、資金不足状態となった。予算は追加繰入を行い経営安定化を図った。今後も公営企業として経営の安定化が最優先課題であり、引き続き、医療提供体制維持に努める。</p> <p>●時間外救急患者受入数は、「断らない医療」を病院方針に掲げて取り組んでおり、基準値を超える結果につながっている（R6 213件 40件の増）。今後も頼られ、かかりやすい医療機関をめざす。</p> <p>●人権標語、人権イラストを町民の皆様にご募集し、人権について考えてもらうきっかけとした（応募791件）。</p> <p>●横田地区集合処理区域統廃合事業について、受け皿となる横田浄化センターの増設設計を実施した。</p> |
|----------------------|---|

| | | | | | |
|-------------|---------------------|------|-------------------------|---|---------|
| - 計画の実現にむけて | ⑩官民協働による持続可能なまちづくり | 85.0 | (1) 地方創生SDGsの推進 | B | 環境政策課 |
| | | | (2) 民間活力の導入 | A | 政策企画課 |
| | | | (3) 住民と協働のまちづくり | A | 総務課 |
| | | | (4) 住民に開かれた行政運営 | B | 総務課 |
| | | | (5) 効果的な行政運営 | B | 財政課 |
| | ⑪スマートタウン構想・自治体DXの推進 | 93.8 | (1) 行政サービスの向上と効率化 | A | 総務課、町民課 |
| | | | (2) 情報通信基盤の整備 | A | 総務課 |
| | | | (3) デジタル化社会に対する人材育成等の推進 | A | |
| | | | (3) 情報サービスの充実 | B | |

各種意見・評価

| 評価委員会 |
|---|
| <p>・認知症高齢者等の行方不明対策としてGPSの活用は非常に良いと感じている。ただし、現場・ケアマネージャー・行政間の連携を密にしないと十分に活用できない。</p> <p>・VRによる認知症体験は積極的に進めてほしい。現場の職員でさえ、大きな衝撃を受ける内容だった。一般の方に認知症を理解してもらう上でも、VRの活用を進めてほしい。</p> <p>・介護施設や医療機関の質の担保は町民だけでなく、移住希望者を増加させるためにも重要な問題である。質の維持のため行政には必要な財政支出をしてほしい。</p> <p>・介護施設が福祉避難所として登録されている。行政職員との連絡はできているが、定期的な会議の場を設けていただきたい。さらに、介護施設だけでなく他に福祉避難ができる施設の整備を考えてもらいたい。特に原発事故など有事の際の対処については、関係機関と検討を進めること。</p> <p>・障害のある小学生は放課後の居場所がない。障害の特性によっては児童クラブには行けない。町内に受入れできる施設がなく、雲南市に通っている方もいる。令和8年度に町内で受入開始する施設があるが、手探りの状態だろう。このような課題について支援を拡充してほしい。</p> <p>・小学校の空き校舎は避難施設として重要な地域の拠点である。空き校舎を企業が利活用する可能性もあるが、有事の際には避難所として活用できるよう覚書を交わすなどの対応を検討してほしい。</p> |

| | |
|---------------------|---|
| <p>今後の 取組方針</p> | <p>【まちの機能充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ふるさとづくり交付金は自治会運営やコミュニティ形成への支援を行うものであるため、継続して実施する。一方、地区によっては、小さな拠点づくりの活動と重複する点もあるため、交付金の使途の整理及び算出方法を検討していく。 <p>【個性あふれる地域形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地区を越えた連携事業（仁多域や横田域の公民館が連携して行う共催事業）を開催することで、全町的なつながりの場づくりと公民館の連携強化を図る。 ●地域住民が主体的に活動を企画運営できるよう。これまでに関わってきた地域人材や各種団体に協力してもらうのではなく、地域人材や各種団体が主体的に「地域子ども達を地域で育てる」という意識で子ども達と関わっていくことができるように支援していく。 ●芸術文化祭、芸能音楽祭等の事業を通して、町文化祭に高校生ボランティアの協力、発表の場を提供して町民に周知（CATVなど）、団体同士を繋げるような活動の実施など文化芸術活動の継承ができるような仕方に工夫する。 ●文化的景観について、令和7年度は整備活用計画策定委員会を開催（3回予定）し、整備活用計画を策定する。 ●図書室利用者の方が、女性中心から、男性へとシフトしている（貸出冊数 R5 男性：4,889、女性：14,011・R6 男性：4,277 女性 12,836）。多くの町民のニーズに応えられるよう、選書及び居場所としての役割を考慮した運営を行う。 ●今後は競技者減少や運営負担等の理由により競技部によっては部の存続、大会の在り方についての検討が必要となってくる。 検討対象：バスケットボール、スキー、サッカー、すもう(休部中) ●少子化が進み、またスポーツ指導に係る学校負担軽減へ向かう中、地域との関わりを含めた町内でのスポーツ振興（ホッケー振興含め）について検討が必要 ●公民館でのフィールドワークや国際交流協会での異文化交流は継続しつつ、英語の基礎となる発音の習得に注目したフォニックス（英語の文字と発音の関係性を学ぶ学習法）を活用した取り組みを進めていきたい。 ●子どもと保護者を対象に異文化に触れる機会を作って行くほか、外国人に対し、防災研修などを実施し、生活に関する不安の解消や交流の機会を創出する。 ●新たに地域おこし協力隊1名を地域づくり支援員として鳥上地区に配置し、地域づくりを活性化させる。既存の2名の協力隊は、地域が活性化するような取組みを実践するようサポートを行っていく。 ●世界農業遺産認定による地域活性化を推進するため、農業、観光、教育、文化振興等の施策に活用する。【再掲】 ●SNS等のメディア等を中心に効果的なPRや積極的な情報発信を引き続き行い、観光振興に努める。観光施設のリニューアルや新たな体験メニューの造成など、新たな観光形態への対応を行う。 ●観光施設の改修や多言語対応などを行う。 ●奥出雲町内の観光施設の紹介方法を見直し、町内の観光施設をテーマ別に効率よく周遊できるような仕組みを検討する（周遊マップ等） ●観光は新たな魅力の掘り起こしなどを行う。これまで無縁であった分野の来町者（特定の小規模グループ・車・バイク等）の誘致などに取り組む。 ●国の補助金や事業を活用し、施設整備や観光関連事業者の研修を行い、受け入れ態勢の充実を図る。令和7年度は、玉峰山荘、サイクリングターミナル、道の駅奥出雲おろちループ、鬼の舌震い等の改修を実施し、来館者数や観光消費額の増加を目指す。佐白温泉の改修では隣接する多根自然博物館と連携し、佐白地域はもとより奥出雲町全体を活動フィールドとした自然体験・田舎体験ができる滞在型施設の整備を目指す。これにより、近年増加している体験型観光を楽しむ観光客の受け入れを行う。 |
| | <p>【安心して暮らすことができるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●令和6年度からの電子連絡帳を活用した見守りネットワークの実施に加え、令和7年度から小さな拠点づくりや関係機関との連携も開始している。今後は見守り方法など事業内容について検討し、さらなる体制強化につなげていく。 ●障害児サービスの充実を図るため、R8年度から放課後等デイサービス事業を町内の1事業所において実施予定であり、事業所や関係機関と連携し実施に向けた調整・支援を行う。 ●ひきこもりステーション事業については、事業の委託先である社会福祉協議会から民生児童委員に協力を仰ぐなどして、アウトリーチ等により当事者の発掘をさらに進め、企業や学校等との連携強化により事業の強化充実を図りながら継続して実施する。 ●高齢者生活・交通サポート事業については、交通弱者保護の観点から、町内の輸送事業者と連携して事業内容や利用方法の周知を図りながら事業を継続して実施する。また、利用者のニーズや地域の状況を把握し、より利便性が図られるよう事業内容の見直しを行う。 ●奥出雲病院と協同し、在宅医療・介護関係者の連携が更に深まる取り組み（地域ケア多職種連携会議の開催）の検討や、講演会・出前講座、広報、シンポジウムの開催により住民への普及啓発を進めていく。 |

今後の 取組方針

- 令和7年度から鳥根県が認知症の症状を体験できるVRゴーグルの貸し出しを開始。認知症及び認知症がある人の理解を深めるため、VR体験会（R7 2回開催済）を実施する。
- 行方不明となった認知症高齢者を早期発見するためのネットワークシステムを活用し、高齢者の事前登録や協力サポーターの新規登録の呼びかけや、必要な方にGPS機器の無償貸出・QRコードシールの給付を行い、認知症高齢者等の家族の支援体制を構築する。
- 公民館地区単位や全町で人権・同湾教育研修を開催してきたが、企業や団体でも研修が開催されるよう働きかけていく。
- 公共施設等適正管理推進事業債等を活用し、不要と判断された施設の除却に取り組む。
- 遊休施設等の活用については、民間への賃借、払下げも視野に入れ、ターゲットを絞って具体的な活用案を提案していく。
- 現施設の利活用状況、老朽化度、緊急性などを総合的に判断し、再整備による長寿命化か廃止かを判断していく。
- 路線バスについては、人口減に伴う運送収益の減少や、物流の2024年問題（労働規制）等に伴うバス乗務員の不足などにより、既存路線の維持が困難な状況となっていることから、地域公共交通計画の「運行見直し基準」（2.0人/便）を運用した運行の効率化と必要な移動手段の確保を図るとともに、定時定路線のバス運行から、予約型乗合交通への転換を進め、令和7年度については、高尾地区へエリアを予約型乗合交通を拡大する。
- 新規道路の整備は必要最低限に抑制し、既存道路の維持管理や補修を計画的に行う。
町道や生活道路は防災・安全対策を優先に「選択と集中」による効果的な道路改良を行う。
- 緊急管路改善事業（令和4年度～令和14年度）において、管路工事L=4,000m、測量設計業務L=500mを実施する。
- 阿井浄水場改良事業（令和8年度～令和10年度）において、経営認可変更の届出を行う。

奥出雲町デジタル田園都市構想総合戦略 施策評価一覧（取組目標別）

令和6年度

| 横断的 取組目標 1 | 多様な人材の活躍を推進する | | |
|----------------------|--|--------|------|
| 担当課 | 総務課、政策企画課、町民課、環境政策課 | 総合評価平均 | 89.6 |
| 前年度の 取組の 成果と課題 | <p>【多様な人々の活躍】</p> <p>●令和6年度のおくいずも未来会議は、移住定住、教育、産業振興、福祉など自分の興味のあるテーマについてメンバー意見交換を行い、3月には、「奥出雲が元気になる。私の挑戦・提案プレゼン会」を開催し、未来の奥出雲が元気になるために、「これから挑戦したいこと」、「町に対して提案したいこと」をメンバー10人が、町長をはじめ、町3役に10の挑戦と提案をプレゼンテーションした。その内容については、関係各課と共有を行い、総合計画・戦略と照らし合わせて次年度以降の施策等につなげる。</p> <p>●12月に横田コミュニティセンターにて「人権を考える町民のつどい」を開催し、人権標語・イラストの優秀賞表彰や講演会を実施した。</p> <p>●人権擁護委員（6名）及び人権問題相談員（1名）を配置し、年4回人権相談会を実施することで、人権に関する悩みや問題に対応している。また、「人権の花運動」においては、町内の学校（三成、横田、阿井）に種子を配布し、児童が人権について学ぶ機会を提供した。さらに、人権講演会を開催（1回）し、人権意識の向上に努めた。しかしながら、講演会等の参加者が限られており、町全体への周知や意識啓発が十分図られていないことが課題である。</p> <p>●6月下旬の「男女共同参画週間」に合わせ、町内ショッピングセンター2カ所及び文化祭会場2カ所においてパネル展示を実施し、理解促進に努めた。また、6月には男女共同参画に関する啓発チラシを全戸配布するなど、広報活動を行った。</p> <p>しかしながら、現状では取組が限定的であり、全庁的な視点から施策を推進していくためには、各課との横断的な連携が重要な課題となっている。</p> <p>●幼児園、小学校低学年の子どもとその保護者を対象にハロウィンとイースターのイベントを開催し、約100人の子どもと保護者が異文化に触れる機会を作ることができた。</p> <p>松江高専とのプログラミング教室には、島根ITデザインカレッジの生徒に参加してもらい、子どもたちや保護者との交流機会を作ることができた。イベント開催数3回</p> | | |
| 今後の 取組方針 | <p>【多様な人々の活躍】</p> <p>●令和7年度においても、テーマ別意見交換会と町長プレゼンを実施し、新しい未来をつくる次代の担い手や新たな一歩を踏み出すまちの核となる人材を育成する。令和6年度にプレゼンされた10の「挑戦」と「提案」は、関係各課と共有し、総合計画・戦略と照らし合わせ、実現に向けてサポートや連携を行う。</p> <p>●公民館地区単位や全町で人権・同和教育研修を開催してきたが、企業や団体でも研修が開催されるよう働きかけていく。</p> <p>●これまでの取り組みを継承しつつ、他自治体の先進的な事例を参考にしながら、町の実情に応じた新たな取り組みの検討を進め、あらゆる世代を対象とした、地道で継続的な啓発活動を展開し、人権尊重の意識が根付くよう努める。具体的には、小学生を対象にした人権の花活動、町民全体を対象にした人権講演会、人権の標語入り物品の配布等を検討している。</p> <p>●公民館でのフィールドワークや国際交流協会での異文化交流は継続しつつ、英語の基礎となる発音の習得に注目したフォニックス（英語の文字と発音の関係性を学ぶ学習法）を活用した取り組みを進めていきたい。</p> <p>●子どもと保護者を対象に、異文化に触れる機会を作って行くほか、外国人に対し、防災研修などを実施し、生活に関する不安の解消や交流の機会を創出する。</p> | | |

| 理念 | 基本目標 | 基本目標評価 (平均点) | 取組 | 担当課 評価 | 施策 担当課 (R6.4時点) | |
|----|-----------------------|-----------------|--------------------------|------------------------|-----------------------|---------|
| 3 | 安心して暮らせる生活基盤の確保とまちづくり | 90.0 | ⑬持続可能なコミュニティがあるまち | (1)小さな拠点づくりの推進 | A | 政策企画課 |
| | | | (2)未来を担う人づくり | A | | |
| | | | (3)価値を生み出すまちづくり | B | 政策企画課 定住産業課 | |
| | | | (4)奥出雲町のブランドイメージの構築 | B | 政策企画課 | |
| | | | (5)官民協働の戦略的シティプロモーションの実施 | A | 政策企画課 | |
| - | 計画の実現にむけて | 85.0 | ⑭官民協働による持続可能なまちづくり | (1)地方創生SDGsの推進 | B | 環境政策課 |
| | | | | (2)民間活力の導入 | A | 政策企画課 |
| | | | | (3)住民と協働のまちづくり | A | 総務課 |
| | | | | (4)住民に開かれた行政運営 | B | 総務課 |
| | | | | (5)効果的な行政運営 | B | 財政課 |
| - | ⑮スマートタウン構想・自治体DXの推進 | 93.8 | | (1)行政サービスの向上と効率化 | A | 総務課、町民課 |
| | | | | (2)情報通信基盤の整備 | A | 総務課 |
| | | | | (3)デジタル化社会に対する人材育成等の推進 | A | |
| | | | | (3)情報サービスの充実 | B | |

各種意見・評価

| 評価委員会 |
|--|
| <p>・過去の日本遺産、日本農業遺産認定の際は交流人口の増加に関して効果を感じなかった。今回の世界農業遺産の認定は農産物の付加価値向上はもちろんであるが、交流人口の増加に向けて、行政、民間ともに取り組んでいくべき。</p> <p>・世界農業遺産について、農・商・工・官など様々な分野が集まった組織を設け、3年後にはこのレベルまで交流人口を増やすという目標をもって、取り組むことを提案したい。交流人口の拡大により地域経済が潤う仕組みづくりを考えてもらいたい。</p> |

奥出雲町デジタル田園都市構想総合戦略 施策評価一覧（取組目標別）

令和6年度

| 横断的 取組目標 2 | 新しい時代の流れを力にする | | |
|----------------------|---|--------|------|
| 担当課 | 総務課、政策企画課、環境政策課 | 総合評価平均 | 89.4 |
| 前年度の 取組の 成果と課題 | <p>●奥出雲町DX推進計画を策定し、計画に基づき取り組みを行った。公式LINEについて町外向け情報発信や簡易申請・予約機能を拡張したほか、生成AIの全庁利用や母子手帳アプリと連携した予防接種に関する手続きのデジタル化、電子決裁文書管理システム導入によるペーパーレス化等の取組を行い行政サービスの向上と効率化を図った。</p> <p>●ケーブルテレビ施設のヘッドエンド、自主放送設備、データ放送の設備更新を実施し、安定したサービス提供が可能な環境を整備した。またデータ放送設備の更新によりスマホアプリでお悔み情報等が閲覧できるようになり、住民の利便性向上を図ることができた。</p> <p>●誰もがスマホ及びデジタルサービスの利便性を感じてもらえるよう、高齢者向けのスマホ教室を計20回開催したほか、デジタル人材育成の観点から、松江高等学校専門学校と協同で小学生を対象としたプログラミング教室を実施した。</p> <p>●議会用タブレット運用について、本会議や委員会、議員の自宅での資料確認用として運用を行った。資料のデータ化によって、資料授受業務や配布業務の効率化がされている。また、資料検索がしやすくなっており、業務効率の向上や情報管理の向上につながっている。コスト面では、ペーパーレス化による用紙代、印刷代が削減されている。</p> <p>●横田地区、布勢地区において小さな拠点づくりの取組みがスタートし、小さな拠点づくりの取組みは全9地区での取組みとなった。地域円卓会議から新たに「地域づくり共有連絡会」に会議を変更し、各地区での取組みを全地区で共有を行い、実践活動につなげた。「地域づくりアクション発表会」については、環境政策課を連携し、「SDGsシンポジウム」として開催し、地域づくりがSDGsつながる取組みであることを町全体で共有した。</p> <p>【地方創生SDGsの実現など持続可能なまちづくり】</p> <p>●町民に広く事業が認知されており、エネルギー価格高騰の影響もあり、近年では最多となる25件の交付を行った。今後も制度周知を継続し、導入促進を図る。</p> | | |
| 今後の 取組方針 | <p>【地域におけるSocirty5.0の推進】</p> <p>●スマートタウン構想・自治体DXを推進するため、国が進める施策も注視しながら、リモートワーク環境の整備等新たな取り組みも行いつつ、公式LINEや生成AI等導入したサービスのさらなる活用を図る。</p> <p>●ケーブルテレビ施設の放送系設備、第2自主放送設備、議場設備（カメラ・マイク）、テレビ受信点設備など運営状況を考慮しながら必要な更新を実施する。</p> <p>●高齢者等のデジタル・デバイド対策を行いつつ、子育て世代など若い世代等にも利便性のあるサービスが提供できるよう取り組みを行っていく。また、子どもたちがデジタルに少しでも興味を持ってもらえるよう、引き続きプログラミング教室等の取り組みも行っていく。</p> <p>●業務効率の向上、コスト削減、情報管理の向上のため、現在のタブレット運用を継続しつつ、都度改善する。コストがかかる部分については、実績や他事例を確認し、検討を行う。</p> <p>●小さな拠点づくりは、引き続き各地区伴走支援をしながら、各地区のサポートを関係機関と連携して行っていくとともに、各地区のニーズを把握し、生活機能の確保等に必要な施策に取組んでいく。</p> | | |

| 理念 | 基本目標 | 基本目標評価 (平均点) | 取組 | 担当課 評価 | 施策 担当課 (R6.4時点) |
|----|----------------------|-----------------|-------------------------|-----------|-----------------------|
| - | 計画の実現にむけて | 85.0 | ⑬ 地方創生SDGsの推進 | B | 環境政策課 |
| | | | ⑭ 民間活力の導入 | A | 政策企画課 |
| | | | ⑮ 住民と協働のまちづくり | A | 総務課 |
| | | | ⑯ 住民に開かれた行政運営 | B | 総務課 |
| | | | ⑰ 効果的な行政運営 | B | 財政課 |
| | ⑱ スマートタウン構想・自治体DXの推進 | 93.8 | (1) 行政サービスの向上と効率化 | A | 総務課、町民課 |
| | | | (2) 情報通信基盤の整備 | A | 総務課 |
| | | | (3) デジタル化社会に対する人材育成等の推進 | A | |
| | | | (3) 情報サービスの充実 | B | |

各種意見・評価

| 評価委員会 |
|--|
| ・医療介護分野で運用が開始された奥出雲町電子@連絡帳について、緊急対応などにも活用していくこと。 |